

# vManage Kernel Panicおよびリリース20.3.2.1

## 内容

[概要](#)

[問題](#)

[解決方法](#)

[データディスクコントローラの設定](#)

[HDDディスクタイプの設定 – IDEからSCSIへ](#)

[20.3.2.1 にアップグレードします。](#)

## 概要

このドキュメントでは、カーネルパニックが発生した場合に発生する問題、vManageリブートのインスタンス、およびバージョン20.3.2.1のリリースについて説明します。

## 問題

一部の導入でカーネルパニックが発生し、vManageインスタンスがリブートされたことが確認されています。APPサーバのメモリフットプリントが高いことが確認されました。このシグニチャは、メモリ不足(OOM)によるLinuxプロセスのクラッシュで、空きメモリの境界が小さいか、約300 MBの空き容量が原因です。

特定された問題領域は次のとおりです。

1. IDEとSCSI
2. OOM – カーネルパニック

## 解決方法

このドキュメントでは、ESXI 6.7(167113306)で行う必要がある変更について説明します。

### データディスクコントローラの設定

このオプションは、基盤となるハードウェアの機能に応じて使用可能になります。データストアが管理されているディスクタイプがHDDの場合は、SCSIオプションのみを使用できます。ディスクホスティングデータストアがメディアタイプSSDの場合、SCSIとSATAの両方を設定できます。ここでは、ディスクコントローラをSATAとして設定することを推奨します。

先に進む前に、config-dbバックアップまたはVMスナップショットを取得します。

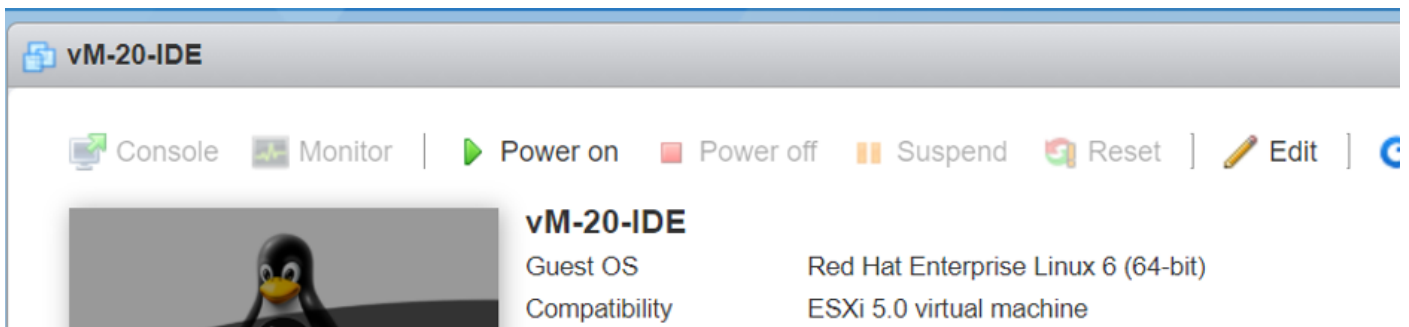
手順は以下のとおりです。

1. vManage CLIセッションからコマンドRequest nms all stopを使用します。
2. VMの電源をオフにします。

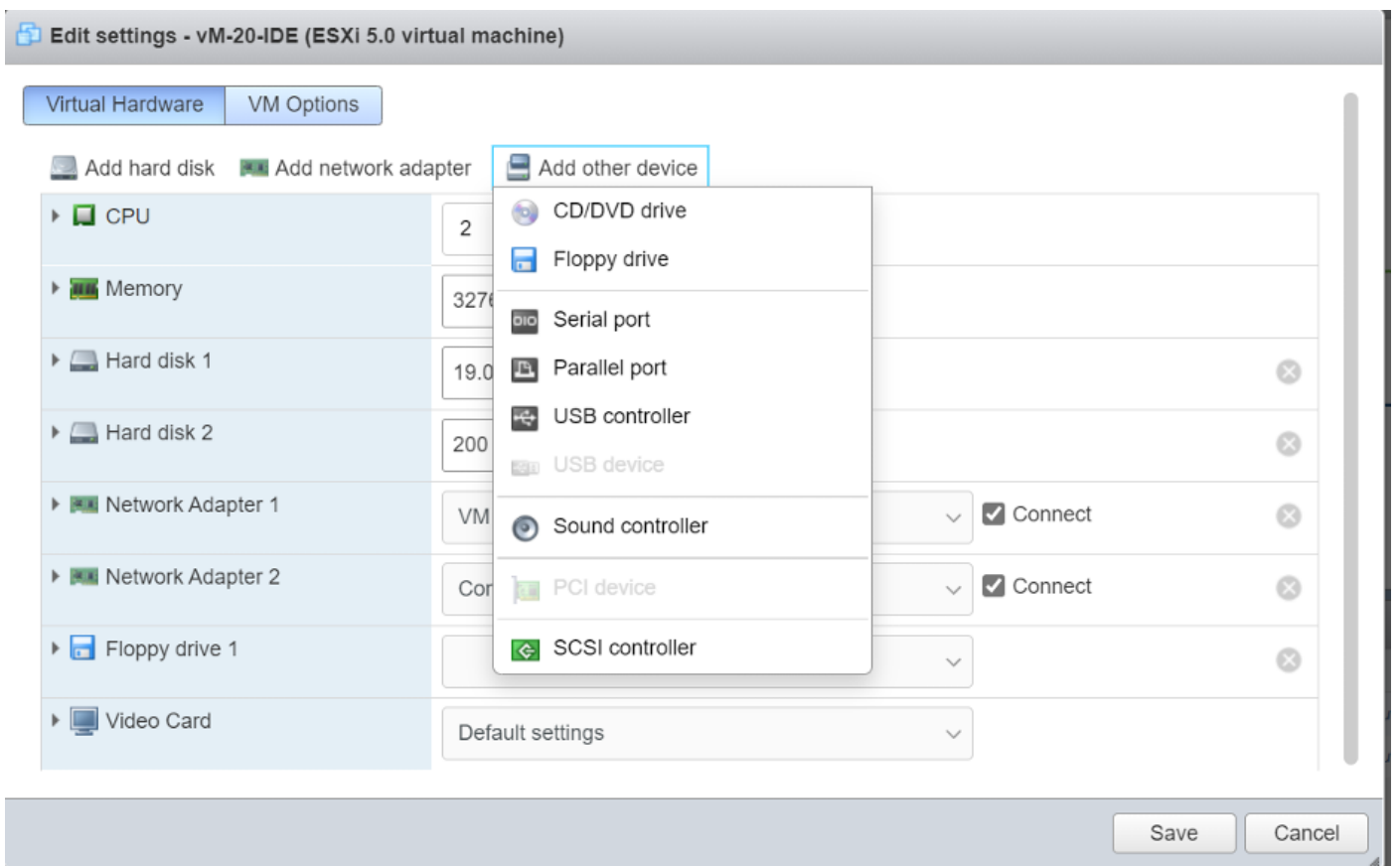
3. vManageインスタンスが追加されていない場合は、各vManageインスタンスに新しいデバイスを追加します。
4. 新しいデバイスはSCSIまたはSATAを読み取ります。
5. ディスクホスティング/opt/dataのVM設定をSATAまたはSCSIに編集します。
6. VMの電源を戻します。

## HDDディスクタイプの設定 – IDEからSCSIへ

1.コントローラを変更する必要があるVMの[編集]オプションを選択します。



2.図に示すように、[Add other device]オプションを選択します。



基になるハードウェアに基づいてコントローラのタイプを選択します。

ハードディスクの種類に基づいてオプションを選択します。

- SSD用SATA
- HDD用のSCSI。

3./opt/dataがホストされているディスクをクリックします。IDEが表示される可能性があります。

▶ Hard disk 1	19.05 GB
▼ Hard disk 2	
Backing	[datastore1] vM-20-IDE/vM-20-IDE_1.vmdk
Capacity	200 GB
Thin provisioned	No
Controller	IDE 0:1

4.最後に、IDEからSCSIまたはSATAに切り替えます。

Edit settings - vM-20-IDE (ESXi 5.0 virtual machine)

Hard disk 1	19.051299	GB	×
Hard disk 2	200	GB	×
Maximum Size	4.77 TB		
Type	Thick provisioned, lazily zeroed		
Disk File	[datastore1] vM-20-IDE/vM-20-IDE_1.vmdk		
Shares	Normal	1000	
Limit - IOPs	Unlimited		
Controller location	SCSI controller 0	SCSI (0:0)	
Disk mode	Dependent		
Sharing	None		

Save Cancel

5. [保存]をクリックします。

6. VMの電源を戻します。

## 20.3.2.1 にアップグレードします。

バージョン20.3.2.1へのアップグレードにより、vAnalyticsとCloudServicesの統合の方法が変更されました。これらの改善された変更を有効にするには、管理者が手動でクラウドサービスおよびvAnalyticsを有効にする必要があります。

1.クエリ時間を大幅に短縮するために、Config-DBの最適化が行われました。

2.ディスクがデバイスデータによって過負荷状態にならないよう、システムフレンドリーな最適化が行われ、80%のディスク容量を使用した場合にデータ収集を停止するために必要な保護手段が設けられています。

3. vAnalyticsがvManageからデータを収集していない場合、vManageシステムはディスクへの書き込みを無差別に継続しません。vManageは、vAnalyticsのディスク容量が10%に相当するバックログを保持していると判断した場合、vAnalyticsのデータ収集が再開されるまで、vAnalyticsのデータの書き込みを停止します。